

10月例会開催 第1部/新型コロナウイルス感染症に伴う地域経済対策 第2部/コロナ禍における地域経済活性化について



10月15日、米子市文化ホールにて政治行政委員会担当の10月例会が開催された。新型コロナ感染拡大の影響を受け、映像配信やリモートでの例会など縮小開催を余儀なくされていたが、第46期に入って初めての通常開催となった。冒頭の高塚会長の挨拶では初めて会員皆の前で挨拶できたことよって安堵したとの言葉があった。続いて理想のリーダーの資質とは

何かと問いかね、それは第46期テーマに掲げる「冷静と情熱」の両方が必要であり、その両方を持ち合わせる人間こそがリーダーになるべきであること、そして理想のリーダー像に向けて皆で力を合わせて努力していく姿勢が重要であると述べられた。

続いて今月の委員長タイムでは、ビジネスメディア委員会の柏木委員長が園長を務める保育園を題材に話をされた。『保育の当たり前を破壊し子供のための保育を創り出す』をテーマに、現在の保育の常識は小学校の準備教育として位置づけられ、テストでいい点をとれる、決められたことを守るなどといったことに目



的がすり替わっていると問題提起をされた。本来の教育の目的とは、子供自身が将来より良い社会にするため主体性や創造性などを育むことであると述べられた。

本例会では伊木米子市長を講師に招き、「新型コロナウイルス感染症に伴



う地域経済対策」を演目とする第1部の講演、第2部として「コロナ禍における地域経済活性化について」をテーマとするパネルディスカッションから成る2部構成で開催された。

第1部では、まず新型コロナウイルス感染拡大のこれまでの経緯や世界各国と日本政府の感染対策の違い、米子市が取り組んできた対応などを説明された。感染予防対策が功を奏し、感染拡大は防止できた一方で、感染者に対する誹謗中傷、デマによる風評被害、コロナ禍における行動監視による非難などは対策が難しく苦労していると述べられた。また、そうした中でも今後は経済活動をしっかり取り組んでいかなければならず、行動様式が大きく変わった今をチャンスと捉え、前向きに行動を起こしてほしいと述べられた。

第2部では、司会進行役を徳中会員、パネラーとして古都會員、豊嶋会員が中心となり、講師の伊木米子市長対して今後の経済対策や感染予防に対する考え方などを聞く質疑応答形式で進められた。感染予防は大切だが、経済をどう両立していくか、これがウィズコロナ、アフターコロナの時代には重要である。そのためには感染者数ばかりを見て経済活動の自粛を一律に判断するのではなく、感染の経緯や拡大の状況などを見て柔軟に判断し、経済活動をむやみに停止しないで欲しいと繰り返し述べられ閉会となった。



(記事:伊澤)

10月例会を終えて

政治行政委員会 仲佐 大志委員長 (ライフメンテナンス 代表)



第46期が始まってからというものの新型コロナウイルス感染症の影響を受け、例会も縮小開催やリモート開催を余儀なくされておりました。米子市でも9月半ばにクラスターが発生し、9月末頃まで警報となっており、このまま続けば10月例会も縮小になるのではと危ぶまれましたが、市中感染では無いとして注意報に変更となり、10月例会を無事に通常開催として行う事が出来ました。行政としても定めたガイドラインがそれによいのかどうかを日々模索しているのだと感じました。

本例会では米子市の伊木市長をお招きし、第1部では『新型コロナウイルス感染症に伴う地域経済対策』と題し、米子市として行ってきた対策のこれまでの経緯やこれからへの市長としての考えをご講演いただき、第2部では会員皆様からの地方行政への疑問やご意見を事前にまとめ、市長とのパネルディスカッションをさせていただきました。このコロナ禍において貴重なお話が拝聴でき、企業としても会としても学ぶ事の多い例会となったのではないのでしょうか。

この度10月例会を無事に終える事ができたのも委員会メンバーを始め、多くの会員の皆様の支えがあったからこそだと思います。本当にありがとうございました。

OB交流会開催 —新OB 18名・OB会入会の儀



10月7日(水)、スマイルホテル米子にて令和2年度OB交流会が開催された。

初めに福田一哉OB会長からご挨拶があり、コロナ禍の元でOB会長に就任された経緯について、また、それに伴うOB会員皆様からの支援に感謝を述べられた。

続いて、第45期にてご卒業された18名の新OBについて、「青年中央会という同じ釜の飯を食った仲だ。今の高塚会長と同じ飯を食った事がないOBも居るが、飯を炊く釜が変わったという話は聞いていない。これからも助け合って、親睦を深め、共に進んでいきたいと思う」と語られた。

引き続き、OB会入会候補者となる新OB18名の挨拶の後に行われた入会審議では、満場一致にて全員のOB会入会が承認



された。

その後、足立名誉OB会長の乾杯のご発声で始まった懇親会では、感染症への対策を行いながらではあったが各々のテーブルで話が弾み、最後まで大変な盛り上がりを見せた会となった。

(記事:石田)

大山お地蔵さまフェスティバル実行委員会開催

当会の継続事業として開催される第6回大山お地蔵さまフェスティバル実行委員会が9月23日に行われました。県のコロナ警報発令により縮小開催となり継続実行委員会及び各委員長が会員を代表しての参加となりました。安達実行委員長より第6回大山お地蔵さまフェスティバル企画(案)の概要について説明があり、今回の全体テーマ「無病息災を祈る」を設け、各部がテーマに沿った内容を盛り込みなが



ら地域社会と共に歩み続ける事業にしていく思いを述べられました。運営は広報・製作展示部、清掃・流しそば部、集客・にぎわい部、集客・ステージ部の4部分に分かれ、各部長の下で担当委員会が取り組みながら、今後10年、20年先まで継続していけるよう全会員参加型として、全ての会員が共通の目的、意識のもと進めていく決意を共有する第1回実行委員会となりました。



(記事:柏木)

T.S.Cへの情熱 ~卒会者より~

福島 利幸(株式会社シー・エイチ・エス 執行役員 総務部長)



平成25年に入会させて頂きました中央会も、あっという間にラストイヤーとなりました。正直当初は本業との両立に苦心し、なかなか前向きに参加できなかった事を思い出します。

中央会の活動では様々な事を経験させて頂きましたが、どんな事をするにしても、入念に準備をすることの大切さを改めて痛感しました。そこまでするのかと最初はかなりの驚きでしたが、今となるとその大切さを理解できます。そして行動するときは全員で一致団結して行動する。これこそが中央会だと感じました。

また皆生トライアスロンやお地蔵さまフェスティバルなど地元で根差した活動は、地域の発展に寄与するとても重要な活動で、このようなイベントに参加できることも中央会に入会して良かったことの一つと感じています。

中央会を通じて様々な人とお会いし活動させて頂き、関わって頂きましたすべての方々に大変感謝しています。ありがとうございました。

第46期ハンサム連載『会社の「当たり前」をやめた!』



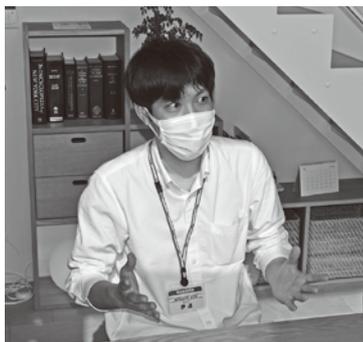
『会社の「当たり前」をやめた!』Vol.3

全国ブランドならではの魅力と地元企業の絶対的な安心感

無印良品の家

第二編集部 石井美佳(リーダー)、竹谷友成、石田倫章、小原武史

「無印良品の家」の運営は、地域のネットワーク・パートナー各社により運営されています。米子店の営業、契約、施工は美保テクノス株式会社が行ってられます。今回は無印良品の家 米子店(木の家)にお邪魔して、ここにしかないデザインや営業方法などお話をうかがいました。



インフィル・コーディネーター
伊達聡様

外観ももちろんですが、玄関扉を開けた瞬間から漂う無印空間!「広い!白い!」今回のインタビュアー石井と柏木委員長のテンションが上がります。

他とは違う、無印の家の特徴を教えてください

『永く使える、変えられる』をコンセプトに、豊かで、楽しい暮らしを包み込むシンプルな器を作ります。まず、壁を作らないというのが一番の特徴です。後々ライフスタイルが変化していくことを想定して、敢えて最初から間仕切りをしません。家族間のコミュニケーション

が取れ、お互いの存在感を感じあうことができる「一室空間」というコンセプトです。無印良品の家としてはライフスタイルの変化に合わせた可変性のある空間、あとから仕切りを足したり変更したりできる仕組みを推奨していますが、もちろんご要望があれば最初から仕切ることもできます。決して大きい家ではないけれど、窓は大きく間仕切りがなく、白を基調として吹き抜けがあって、広く見えるのです。

あとは、敢えて玄関ホールや廊下がないことですね。ホールや廊下にいる時間は1日の中でほとんどない、無駄な部分をなくして、LDK居住空間を広くとるといったのも特徴です。

吹き抜け空間は開放的でとても魅力的ですが、こう広いと…

広い家を作ると夏暑くて冬寒いということが起こってしまいますが、それらを補うための断熱性能がしっかりした家になっています。ガラスはすべてトリプルガラス、壁も外断熱と内断熱を兼ね備えたダブル断熱工法を採用しています。32坪のこの木の家では、夏でも冬でもエアコンは1台しか使いません。今年の猛暑も1台でした。そのくらい性能を高めています。

それは嬉しいですね!間仕切りをすると、結局すべての部屋にエアコンが必要になったりしますからね…

太陽光の角度を計算して直射日光が入らないように、でも太陽の低い夕方や冬は太陽熱を取り込んで暖かくなるようにします。また、家中くまなく風が通るように、窓の配置や大きさも計算して、自然エネルギーを最大限利用できるしくみになっています。

美保テクノスさんが無印良品の家のパートナー会社になったのはなぜでしょうか?

美保テクノスも住宅を売っていますが、鳥取県東中部や島根県へのエリア拡大に向けて無印良品のブランド力と優れた商品力を借りたということで。お客様に対しては自社の保証に加え、無印良品の保証もあります。

美保テクノス住宅の見学者が無印良品の家を気に入られたり、要望によってその逆もあったり、どちらかで成約されるので相乗効果はけっこうあります。相乗効果も伴い、美保テクノスのハウジング部門は全体的に好調です。

これだけの品質で(米子店木の家モデルハウスは)32坪で2,239万円(税込)はお安いですよ

間仕切りと営業活動をやめた!

10年、20年後の生活ってなかなか想像できないですよ。その後々の工事費も、工務店さんでは再現できないほどの価格でできるのです。ライフスタイルのアップデートを楽しむのも生活の楽しみになりそうですね。

そして、ここでしか買えないもの、他にはない商品価値があれば、顧客を惹きつけることができるのだと実感しました。私も今はガツガツ営業する派ですが…皆さんも自社の強みを見直し、オリジナルなブランド価値を創造できたら、営業方法も変わるかもしれませんよ。

もともと無印良品は「デパートと同じものを安く」というコンセプトで、包装を簡易化するなど生産工程を見直すことから始まったんです。住宅に関しても同じように見直して、無印良品の家は同じ白壁、同じ仕上げ、建物は四角で総二階など統一することで、全国一括発注になり資材のコストダウンが可能なのです。

無印良品のコンセプト=シンプルで材質を統一することが、コストダウンに繋がると

小売りで特化してきたメリットが住宅でも活用されたんですね

はい、地元の工務店さんでは、この性能をこの値段では再現できないと思います。

無印良品の家は営業活動をされないと聞いたのですが、なぜでしょうか?

紙媒体は使いません。住宅フェアにも参加しないですね。ホームページとSNSのみです。

また、来られた方に接客した後の電話営業などもしません。電話はかけないことを伝え、気になる方からはまたご連絡をいただいています。今の時代、追うことのイメージが良くないこともありますし、ブランドを守るためでもあります。

一般的な営業活動を行わないことは、移動時間などの時間の削減になり、その時間を他の仕事に使えることが出来るので、仕事の効率アップにも繋がっています。

納得です。ここにしかないものであれば、お客様はきますよね

他に「これは辞めた!」ということはありませんか?

スーツを着なくなったことでしょうか(笑)雰囲気づくりは大切ですから、名刺入れ、ペン、身につける物はすべて無印良品です。前からちょこちょこ通っていましたが、さらに通う回数が増えました(笑)

本当に無印良品のショップ店員さんにしか見えませんよ。完全な無印良品空間に感動しました!



当たり前を 少し変えてみたグルメ紀行

今回は「ハンサムに載せるなら、会員企業かOB会員企業のところに行くべき」という当たり前を変え、少し粋をあげ、会員・OB会員やその企業と所縁のあるお店を取りあげてみる事に。



お店とっていいのではないだろうか。

米子市内から田園地帯を抜け、かつてのトライアスロンバイクコース沿い、赤猪岩神社の近く「こんなところにお店が?」と思うようなお寺の境内地にある古民家。そこで味わう蕎麦は、周囲の風景や環境と相まって非常に美味しく感じました。(天ざるやそば定食といった定番のほか、そばとろや鴨のローストといったメニューも味わえるので、行かれた事のない方はぜひ一度。因みに天ぶらのキノコの仕入れ先は言うまでもありません(笑))



という事で、まず向かったのは、南部町にあるそば処門所(もんじょ)さん。オープンしてさほど年数が経っているわけではないが、既に地元は元より県外からもお客が来る人気店である。どこに中央会との縁があるのかといえば、店主が伯耆のきのこの三鴨OBのいとこ、そして修行したお店が宇野OBのお店昌庵さん、となれば中央会会員企業に準じるくらいのお店

門所でおいしい蕎麦を味わった後は、最近の南部町界隈での流行に乗るなら、そこから某ジェラート専門店やカフェに流れるのだが、それでは当たり前すぎでつまらない。という事で、今度は少し離れた淀江町のそばカフェ真名井さんへ。

こちらは、元々先代の手作り総菜を中心としたレストランだったのが代替わりされたお店。その際にそばを中心にしたメニューと一緒にパフェも開発してしまったお店である。季節のフルーツをふんだんに用いたパフェを出したところ、インスタ映える外見と内容にバズってしまい、週末は2時間待ちが当たり前という大人気店に。我々はシャインマスカットのパフェを美味しく頂いたのですが、取材日はたまたま悪天候と平日だったのも相まって早く食べることが出来、ある意味幸運でした。(電話予約等が不可で、当日受付開始時間にお店で受付するしか手がないので行かれる方はご注意ください)



ちなみに、パフェに隠れてしまっているが、イタリア製のソフトクリームメーカーで作られるカーリーソフトクリームというのがあり「何だこれ?」ってリアクションをしてしまうくらい、そこのソフトクリームとは別物なので、そちらもぜひ食べてみるとよいかも。

当たり前を少し変えたグルメ紀行、今回は、家族等はもちろん、県外からの来客等でも連れて行くと喜ばれそうな2軒のお店を取り上げました。

興味を持たれた方はぜひ一度どうぞ。

(記事:竹谷)



会長連載

勇気ある一歩

～クールヘッド・ホットハート～

第46期 会長 高塚 康治

会長連載3回目、今回のテーマはずばり「読書」です。皆さん本を読まれていますか?私の読書歴はというと、遡ること数十年前、宗田理の「ぼくらの7日間戦争」から始まりました。ぼくらシリーズのあとは、シドニィシエルダンの虜になりましたが、しばらくの間休読します。20代は村上春樹と村上龍に魅了され、背伸び読書を始めた30代前半の私はとにかく自己啓発系の本と司馬遼太郎を読みあさりました。40が近づくにつれ、稲盛和夫氏をはじめとする経営本を読むようになり今に至るわけですが、本からえた知見はいつの時代でも自分を助けてくれるような気がしています。秋の夜長に読書はいかがですか?また皆さんの座右の書を教えてください。

11月役員会報告

令和2年11月2日(月)米子市公会堂 集会室5にて11月役員会が開催されました。議題は以下の通りです。

- 10月例会報告の件
- 新入会員オリエンテーション報告の件
- 鳥取県中小企業青年中央会の件
- 11月例会開催の審議
- 12月例会開催の協議
- 第6回お地蔵さまフェスティバル開催の協議

※なお、詳細については各委員長までご確認ください。

編集後記

最近ぐっと寒くなってきて、秋が深まり冬が近づいていることを感じています。

寒いと活動したくなくなりますが、10月例会も無事通常開催されましたので、今後は今までより会員同士会う機会も増えると思います。寒さに負けずに情熱をもって活動に精を出していきましょう!

(ビジネスメディア委員会 小原)

ちょっと待った!! ナンバー1

権田和志OB(㈱味屋コーポレーション)



ある日の編集会議に、権田和志OB(45期卒会。(㈱味屋コーポレーション)の「料理といえば俺だろ!!!」という声が届いた(気がした)。

そこで我々は気が付いた。「料理といえば権田OB。権田OBといえば『権チャーハン』!」。

ということで、今回はOBからとなりませんが、中央会の料理人といえばこの人、権田和志OBの幻の権チャーハンを取材しました。

なんとこの権チャーハン、中央会では今まで浜田貴稔OB(43期卒会)しか食べたことがないまさに幻の一品である。

今回我々は権チャーハンをこの目で見て、食す機会を得た。いわば歴史の証人である。

権田OBのチャーハンを作る時の真剣さはまさにプロ。

出てきた権チャーハンを見て、あまりの美しさに我々は生唾を飲んだ。チャーハンを口に運ぶレンゲが震える。

「美味い!」。思わず口からそう零れる。これほど美味しいとは。噂になるのもうなずける美味しさだ。

ごはん・油・卵の計算された黄金比率(残念ながら比率は企業秘密とのこと)、そして、火力。加えてこの道25年の権田OBの知識・経験、そして、持って生まれたセンスが光る至高の一品であった。



この権チャーハン、食すには2か月前の予約が必要とのこと。みなさんも予約してぜひご賞味ください。

そして、権田OB、この度はお忙しい中お時間を割いて取材にご協力いただきありがとうございます。ありがとうございました。

(記事:小原)